

## 再びギターを始めたが・・・

昨年の秋から再びギターの練習を始めました。「再び」の裏には一つのストーリーがあります。定年2年目にスペインのマラガ大学に留学した際に、アパートのすぐ近くにギター工房があり小売りもしていました。“せっかく本場にいるのだから”と私はそこでギターを買おうと大学でスペイン語の勉強の傍らアパートでスペイン人のギター教師について練習したのです。「影を慕いて」など日本のギター曲とメロディだけ弾く「禁じられた遊び」や「イエスタデイ」など5曲ほどでした。



スペイン人のギターの先生と

ところが帰国後、私は予想もしなかった鬱になってしまったのです。幸いに1年ほどで完治し仕事にもカムバックすることができましたがギターとはすっかり遠ざかっていました。

ところが昨年の秋、あるギターの演奏会がきっかけで「もう一度やってみよう」と思いついたのです。年齢を気にしながらも市内にあるギターサークルに入れていただき練習を再開しました。でも80を超えたこの歳ではなかなか上達しません。弦を弾く指は硬く、覚えても覚えても忘れてしまう。最初のころは弦を押さえる左手の指の先が痛みましたが、数カ月するとその部分の指の皮が厚くなり痛みも消えていきました。



毎週1回、先生についてサークル仲間とほぼ半日のレッスン。自分の場合、今はどこに行っても“最高齢”みたい？。そんななか有り難くも自分の子供か孫に近い“若い先輩”にアドバイスを受けながらの練習です。年内には定期演奏会やいくつかの行事に出演する予定もあり（なんとこんな自分も参加させていただける、とのこと）、日程

が迫ってくると練習にも拍車がかかります。“本番で私がキチンと弾けなくても仲間の演奏に助けられてなんとかなる”なんて甘えた姿勢では絶対にいけない！教室で基本を教わり問題点の指摘をしてもらい、あとは自宅で個人練習に励むのみです。

スポーツも楽器演奏も「上達は練習の量と継続」とも言われます。ある著名なバレリーナの言葉に「1日休むと自分に分かり、2日休むと監督に分かり、3日練習を休むと<その質の低下が>観客でも分かる」と。至言ですね。



なかなか上達しないけれど、自分も他人も楽しめるギターは“定年後の財産”みたいになっています。それに指を動かすことは老化防止にも役立つと言うし・・・。「いつかは『禁じられた遊び』や『アルハンブラの思い出』を！」なんて“見果てぬ夢”を追って老骨に鞭打っているところです。

マラガ大学でスペイン語を学ぶ留学生をアパートに招いて。ここでも下手なギターを披露しました